



### ○伊達政宗とイチョウの話

天正17年(1589年)伊達政宗と相馬義胤がこの地で戦い、伊達氏は駒ヶ嶺城、続いて新地城を攻め落としました。その時に、政宗は持っていたイチョウの鞭をこの地に刺し、伊達と相馬の境としました。

その鞭は長い時間を掛けて根付き、やがて長い年月の間に枝を張り大樹となりました。しかし、刺した鞭の根っこの方を上にして刺したために、育つに従って上の方が太くて根元が細く、枝はいったん下に向いて出るものの、今度は反転して半円形を描くようにして空に向かって伸びるという奇観を呈しました。このことから「さかさいちょう」と呼ばれるようになったという説です。

### ○気根、乳垂、垂乳根

白幡のいちょうを観察してみると、その幹や枝のところどころから乳房のような形状のものが垂れ下がっているのを観察できます。これは、気根(きこん)、乳垂(ちだれ)、垂乳根(たらちね)などと呼ばれています。

古く、新地町地元の人々に伝わる話では、人間の乳房のような形状をしていることから、乳の出の乏しい人が、竹筒に甘酒をいれて枝に下げてお祈りすると、乳の出に恵まれるとされています。



### ○いちょうにまつわる昔話

この大銀杏は何十年か昔に、一度落雷のために焼けてしまいましたが、そのため幹の中央部分はがらんどうで、畳が二畳ほど敷ける洞穴になっており、その洞穴には大蛇が住んでいるそう。

この大蛇、近くに住むこの一帯の管理をしている主の美しい娘に懸想して美男の若侍に身を変えて夜ごとに通い詰めたのだそう。しかし、娘の母親は、若侍を不審に思っていました。それは若侍が帰った後の廊下が濡れていたり、どこのお侍様なのか娘に聞いても、娘は知らないというからです。ある夜、母親

は障子に穴をあけてなかの様子をうかがってみると、母親には若侍が蛇に見えました。あくる日、娘にそのことを確認すると、娘にはあくまでも侍にしか見えていないとのこと。

そこで、母親は娘に、今度若侍が訪れたなら、糸を結びつけた針をお侍さんの袴の裾にさしておくように言い含めました。ある晩、娘は母親の言いつけ通り、針を裾に刺しておきました。あくる日、若侍が帰った後、母親は糸をたどっていきました。糸は、大きないちょうの木のうろの中へと続いていました。母親が覗きこんでみると二匹の大きな蛇がおりました。

「ばかな息子よ、お前が人間の娘にこっそりと針を縫いつけられたせいで、見てみろ、お前の体はそのカネの毒\*にやられてたちまち腐っていくぞ。だから人間の娘なんぞに惚れてはならなかったのだ。」

「それでも良いんだ。おれは死んでもあの娘の腹には、すでにおれの子供が宿っているから。」

なんと、娘は蛇の子供をうえつけられたというのです。

「それでもな、息子よ、人間というのはとても賢いのだ。菖蒲とヨモギの湯に浸かればお前のうえつけた子供などたちまち流れてしまうだろうに。」

ここまで聞いて娘の母親は大急ぎで家に帰ると、親蛇が言っていた通り、菖蒲とヨモギの葉を湧いた風呂に入れ、娘に浸かるように言いました。娘は、その湯に浸かって、蛇の子をおろし事なきを得たというお話です。

このお話は、福田地区の郷土歴史家、荒保春さんの昔話で紹介され、新地町で活動している「新地語っみっ会」の編集した昔話にも紹介されています。

※カネの毒・・・カネ＝鉄。実際に蛇が鉄を苦手、あるいは蛇にとって鉄は毒なのかどうか宮城県仙台市の八木山動物園に聞いてみたところ、そんな話は聞いたことはないが、針でしかも錆びているようなものであれば、バイ菌が入って体が腐ってしまうことはあるかもしれません。と教えて頂きました。もしかしたら、娘が袴のスソだと思っていたのは蛇が変身した体の一部だったのかも知れません。

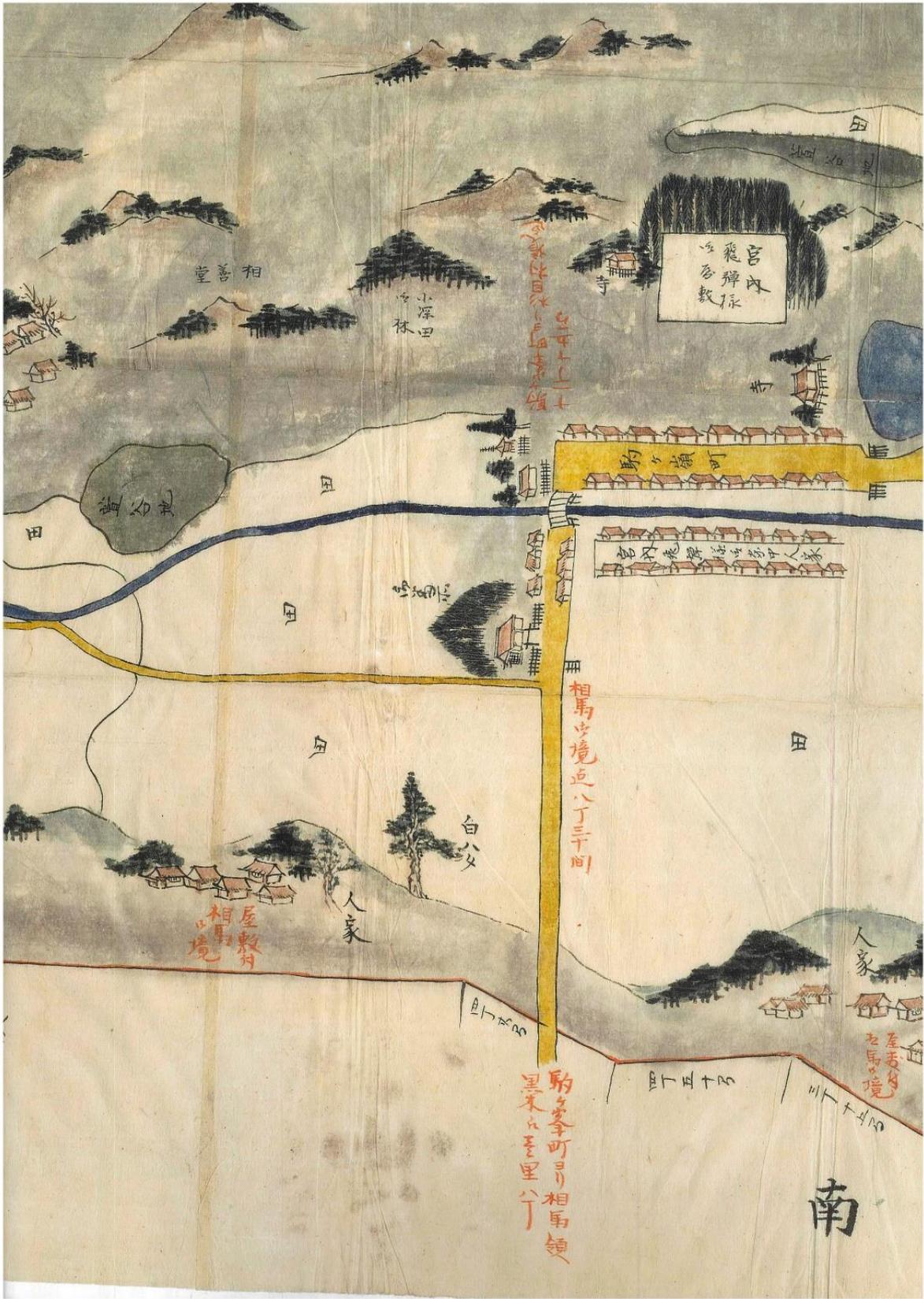
## ○樹齢について

次のページの絵図は、石巻市在住の鈴木氏より写しを寄贈頂いたもので、その一部分をスキャナーで読み取り掲載しました。

嘉永6年（1853年）11月に仙台伊達藩により作成された駒ヶ嶺村の絵図面の一部分で、駒ヶ嶺城の位置には最後の城代を勤めた宮内家の名前が確認できます。

絵図の下方に「白ハタ」と表記され、巨木が描かれています。これは位置的にも間違いなく白幡のいちょうを描いているものと判断できます。

平成3年（1991年）の調査時点での推定樹齢は230年ですから、根付いた（あるいは芽吹いた）頃が西暦1750年ころだとすると、この絵図面のころのいちょうは樹齢100年くらいでしょうか。1853年7月ペリーが浦賀に来航していますが、どうやらその時には絵図面に記載されるほど人目をひく大木として認識されていたようです。





平成26年  
10月29日撮影



平成26年  
11月27日撮影



令和4年12月2日 撮影

《参考・引用文献》

- ☆新地町教育委員会 「新地町史 民俗編」(1993)
- ☆新地町教育委員会 「ようこそ新地町へ」(1993)
- ☆新地語ってみっ会 「新地の昔話」(2011)
- ☆新地町教育委員会 「改定 ようこそ新地町へ」(2014)
- ☆医学書院 「日本の乳信仰リスト  
おっばい神社・おっばい寺・乳銀杏・乳地蔵・乳神様を記録する」助産雑誌(2022)
- ☆福島民報社 「ふくしまの名木 年輪刻んで」福島民報社(2013)
- ☆植田 龍 「浜通り伝説めぐり紀行」歴史春秋社(2005)

著書名の先頭に☆印のついている資料は、新地町図書館にて蔵書しております。